

学会通信

2019年活動報告（敬称略）

（1）第20回総会

2019年1月12日（土）午前11時20分～午後5時20分

於：早稲田大学36号館382教室（戸山キャンパス）

1. 研究発表（所属は発表当時）

相馬拓也（早稲田大学 高等研究所）

「地理学系フィールド・サイエンスの描き出す学融合時代の民族誌（エスノグラフィ）—モンゴルとネパールのフィールドを事例に一—」

近藤宏（立命館大学 衣笠総合研究機構）

「樹が倒れるとき：パナマ東部先住民エンベラによる森林伐採と未来のイメージ」

河野正治（日本学術振興会／京都大学）

「せめぎあう権威と礼節—ミクロネシア連邦ポーンペイ島における身分階層秩序の動態」

2. 総会

司会（酒井貴広）

議事（議長：松田俊介、書記：工藤久貢）

事務局の竹中宏子理事・里見龍樹事務局長より、以下の提案および報告があり、審議が行われた。

a. 2018年事業報告

b. 2019年事業計画案

2018年の事業に準ずるものに加え、3つの新企画について説明があった。

c. 2018年決算報告

2018年収支決算書（次々頁）

d. 2019年予算

2019年収支予算書（次々頁）

印刷製本費用が業者都合で昨年12月請求予定であった分が今年1月にずれ込んだため倍額となる点と、学会管理業務を外部委託するにあたっての業務委託費を予算に計上している点の説明があった。

上記a-dの審議全般において、次の質疑応答があった。

① 議事案については資料がないと内容把握ができないため、配布を希望するとの意

見があり、次回から配布を検討するよう回答した。

- ② 上記に関連して、3つの新規企画「院生から次の展開へ」、「英語セミナー」、「研究集会での高校生セッション」の詳細な内容を説明した。

e. その他

2019年度の役員選出として、前年度同様、会長を西村正雄氏、副会長を三浦敦氏が務める旨が提示された。

昨年の総会で認められた学会名称の変更について、理事会で「関東文化人類学会」と「現代文化人類学会」という案が出たが、総会当日に学会員からも案を提出いただき、それらも含め理事会で改めて検討されることが説明された。

学会名称案についてはコンセプトに関する質問があり、「早稲田」という名称を外し、より外に向けて開いていくためであると説明があった。

2020年度からの学会誌『文化人類学研究』の電子化については、J-Stageへ申請し、間もなく登録が完了する見込みで、理事会側では一部紙媒体を残すか否かを検討、また業者の選定中である旨が説明された。

早稲田文化人類学会は、日本学術会議協力学術研究団体として登録されたことが報告された。

学会事務業務を毎日学術フォーラムに委託することに伴い、年会費支払方法変更など会員への協力の依頼を行った。

2019年1月12日(土) 早稲田文化人類学会総会資料

2018年収支決算書

2018年1月1日～2018年12月31日

収 入		支 出			
会費	¥747,240	事業費	印刷製本費	¥783,851	
			会場施設費	¥0	
会誌売上金	¥100,980		会議費	¥12,138	
前年繰越金	¥1,457,347		賞金	¥50,000	
学会補助金	¥434,882		通信運搬費	¥55,654	
雑収入	¥0		事務用品費	¥1,920	
			事務費	複写費	¥0
			人件費	謝金	¥189,800
				交通費	¥660
			その他	振込手数料	¥0
		雑費		¥41,462	
		次年繰越金		¥1,604,964	
合計	¥2,740,449	合計		¥2,740,449	

2019年収支予算書

2019年1月1日～2019年12月31日

収 入		支 出			
会費	¥800,000	事業費	印刷製本費	¥1,400,000	
			会場施設費	¥0	
会誌売上金	¥30,000		会議費	¥50,000	
前年繰越金	¥1,604,964		賞金	¥0	
学会補助金	¥800,000		通信運搬費	¥70,000	
雑収入	¥30		用品複写費	¥50,000	
			事務費	業務委託費	¥200,000
			人件費	謝金	¥200,000
				交通費	¥20,000
			その他	振込手数料	¥500
		雑費		¥10,000	
		予備費		¥1,234,494	
合計	¥3,234,994	合計		¥3,234,994	

3. シンポジウム

テーマ 学会誌の編集から文化人類学コミュニティを再想像する

<趣旨説明>

木村周平（筑波大学）

<パネリスト>

三浦敦（埼玉大学）

「ジュルナル・アン・ジュー Journal en jeu、あるいは変容について—『文化人類学研究』をめぐって」

綾部真雄（首都大学東京）

「方法としてのクラシック・モダン—『社会人類学年報』の立場から
箭内匡（東京大学）

「生きものとしての学術誌—『文化人類学』の編集をめぐる経験から」

<コーディネーター・司会>

箕曲在弘（東洋大学）

（2）第22回研究集会

2019年7月13日（土）午前10時30分～午後5時30分

於：早稲田大学36号館681教室（戸山キャンパス）

1. 高校生による研究発表 10:30～12:30

2. 高校生向け講演 12:40～13:30

二文字屋脩（早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター 講師）

「キズナとホダシ——少数民族ムラブリにみるつながり方の倫理学」

3. 研究発表

新津厚子（東京大学大学院総合文化研究科博士課程満期退学）

「野外の物語を読む——東部ロサンゼルスにおける「チカーノ壁画」の解釈から」

橋爪太作（東京大学大学院総合文化研究科博士後期課程）

「真理の実践としての土地争い——ソロモン諸島マライタ島北部西ファタレカ地域における商業的木材伐採の展開とアイデンティティの動態」

4. 講演

小馬徹（神奈川大学 名誉教授）

「女性婚（東部アフリカ）と同性婚（LGBT）——人類学的知の定位のために」

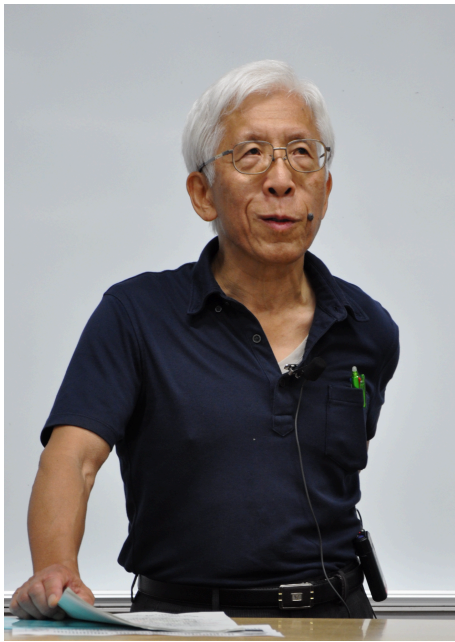


写真 小馬徹氏

(3) 理事会

理事会は、以下の日程で行なわれた。審議内容はおもな議題のみを記した。すべての議事録は事務局に保管されている。

第 41 回 2019 年 1 月 12 日 (土)

1) 審議事項

- a. 2019 年 (第 20 回) 総会・シンポジウムについて
- b. 2018 年決算・監査および 2019 年予算案について
- c. 2019 年役員および事務局体制について
- d. 2019 年 (第 22 回) 研究集会について
- e. 2020 年 (第 21 回) シンポジウムについて
- f. 2020 年 (第 23 回) 研究集会について
- g. 学会名称変更について
- h. 会員獲得活動企画
- i. その他

2) 報告事項

- a. 会員数動向および財務状況
- b. 編集企画委員会
- c. その他

第 42 回 2018 年 7 月 13 日（土）

1) 審議事項

- a. 2019 年（第 22 回）研究集会について
- b. 2020 年（1 月）総会・シンポジウムについて
- c. 2020 年度 7 月研究集会について
- d. 2020 年以降の役員・委員・事務局体制について
- e. 学会誌（電子媒体）を委託する業者について
- f. 学会名称変更について
- g. 名称変更後の体制などに関する提案
- h. 編集企画委員会より提案

2) 報告事項

- a. 会員数動向および財務状況
- b. 編集企画委員会
- c. 2020 年日本文化人類学会準備に関する進捗状況について

（4）編集企画委員会

編集企画委員会は、以下の構成および日程で行なわれ、学会誌 20 巻に関する特集原稿・投稿原稿の査読依頼・審査などの編集業務、および学会誌第 20 巻の特集企画の設定などを担当した。

1. 構成

編集企画委員長

堀口佐知子

編集企画副委員長

箕曲在弘 石田智恵

編集企画委員（50 音順）

碓陽子 磯野真穂 砂井紫里 内藤順子 中嶋哲也 濱雄亮

2. 開催日程

第 57 回 2018 年 4 月 6 日（土）

第 58 回 2018 年 8 月 5 日（月）

第 59 回 2019 年 12 月 24 日（火）

(5) 学会誌

『文化人類学研究』第20巻が2019年12月30日に刊行された。

(6) 会員動向（刊行物出版）

【書名】『権威と礼節：現代ミクロネシアにおける位階称号と身分階層秩序の民族誌』

【著者名等】河野 正治

【刊行年月】2019年2月

【出版社】風響社

【書名】『犬神考：迷信に対する人々の意識の変容』

【著者名等】酒井貴広

【刊行年月】2019年6月

【出版社】早稲田大学出版部

【書名】*Incorporating Patient Knowledge in Japan and the UK: A Study of Eczema and the Steroid Controversy*

【著者名等】Miho Ushiyama

【刊行年月】2019年8月

【出版社】Routledge

【書名】『犬からみた人類史』

【著者名等】大石高典・近藤祉秋・池田光穂

【刊行年月】2019年5月

【出版社】勉誠出版

【書名】『宗教と開発の人類学—グローバル化するポスト世俗主義と開発言説』

【著者名等】石森大知・丹羽典生（編）

【刊行年月】2019年6月

【出版社】春風社

【書名】『呪術師のいる風景』

【著者名等】齋藤正憲

【刊行年月】2019年5月

【出版社】 東京図書出版

【書名】 『奇蹟と痙攣：近代フランスの宗教対立と民衆文化』

【著者名等】 蔵持不三也

【刊行年月】 2019年9月

【出版社】 言叢社

(7) 受贈図書・雑誌要目

慶應義塾大学東アジア研究所

・『慶應義塾大学東アジア研究所ニューズレター』 No.31、2019年6月。

成城大学グローバル研究センター

・及川祥平／加藤秀雄／金子祥之／クリスチャン・ゲーラット（編）『東日本大震災と民俗学』 2019年3月。

・T. Uesugi and K. Takae (eds.), *Revisiting Glocalization in Japan* (『ローランド・ロバートソン、グローバルを語る』), 2019.

・大澤舞／北山研二／木下誠（編）『越境の表象』 (Seijo CGS Working Paper Series No. 15)、2019年3月。

成城大学大学院文学研究科

・『日本常民文化紀要』 第34輯、2019年3月。

東京女子体育大学・東京女子体育短期大学

・『東京女子体育大学・東京女子体育短期大学紀要』 第54号、2019年3月。

(8) 会員数

上記の学会活動の結果として、2019年11月30日現在の会員数は189名となっている。

(事務局)